

能および狂言の自主公演のほか、後継者の養成、資料などの収集・展示その他を行ってきた国立能楽堂(国立劇場能楽堂)では、1983年の開場以来30年を経て、2013年に開場30周年記念公演が行われた。その内容は、観世清和(現・清河寿)『翁』、梅若玄祥『楊貴妃(干之掛・臺留)』、金剛永謹『土蜘蛛(千筋之伝・ささがに)』その他(9月15

能・狂言 2013

国立能楽堂開場30周年と各賞の受賞

西 哲生



観世清和 国立能楽堂開場30周年記念公演『翁』
写真提供:国立能楽堂

日)、大槻文蔵『住吉詣(悦之舞)』その他(16日)、友枝昭世『羽衣(舞込)』、野村萬『庵の梅』その他(17日)、野村萬齋『老武者』その他(20日)であった。

さらに国立能楽堂では開場30周年記念特別企画の催しがあり、梅若玄祥『スーパー能 世阿弥』(初演、梅原猛作、4月19日)、片山幽雪『関寺小町』(5月29日)、金剛永謹『道成寺(古式)』(11月1日)、山本東次郎『釣狐』、野村万作『太鼓負』(12月7日)が上演された。

また国立能楽堂では月間特集・世阿弥生誕650年と題し、10月に、世阿弥作とされる『白楽天(長序之伝)』(2日)、『鶴羽』(9日)、『実盛』(12日)、『右近』(18日)、『融(十三段之舞)』その他が上演された。この月間特集

は、引続き14年1月にも、5日間にわたり同じ趣旨の催しが行われる。

京都の金剛能楽堂は室町四条上ルから現在の烏丸一条下ルへ移築して10年に当たり、10周年記念公演(11月24日)が催され、金剛永謹『翁(十二月往来)』、『羽衣(床几之物着)』、金剛龍謹『石橋』ほか上演された。

地方で着実に演能活動を続けている

喜多流大島能楽堂(広島県福山市、喜多流大島家所有)が創建百周年公演(12月22日)を行った。観客席300弱の能楽堂であるが、年間4~5回の定期公演を行っている。大島政允『木賊』、塩津哲生『石橋(連獅子)』ほか上演された。

平成24年度芸術選奨文部科学大臣賞(演劇部門)を観世流シテ方26世宗家の観世清和が受賞した。1959年生れ、25世観世左近の長男、芸術選奨文部大臣新人賞を受けている。観世会を主宰。日本能楽会会員。『定家(袖神楽・露之紐解)』、『江口(平調返)』、『阿古屋松』その他が受賞対象作品となった。

平成24年度文化庁芸術祭賞(演劇部門)優秀賞を観世流シテ方・上田拓司(関西)、和泉流狂言方・野村萬齋(関東)が受賞した。現在は文化庁芸



野村萬 国立能楽堂開場30周年記念公演『庵の梅』
写真提供:国立能楽堂



梅若玄祥 国立能楽堂開場30周年記念 特別企画公演『スーパー能 世阿弥』
写真提供:国立能楽堂



山本東次郎 国立能楽堂開場30周年記念 特別企画公演『釣狐』
写真提供:国立能楽堂

術祭は関西・関東でそれぞれ別個に催され、受賞式も別日に行われている。上田拓司は上田照也の次男。『隅田川』(照の会)が対象となり、野村萬齋は野村万作の長男、『花子』(狂言ござる乃座)が対象となった。ともに日本能楽会会員。

日本芸術院賞を観世流シテ方・浅見真州^{まさくに}が受賞した。1941年生れ、浅見真健^{まさたけ}の5男。父および観世寿夫^{ひさお}、8世観世鍔之丞^{てつのじょう}に師事。芸術選奨文部科学大臣賞、観世寿夫記念法政大学能楽賞等を受賞している。日本能楽会理事。すでに『卒都婆小町』^{おぼすて}『姨捨』その他の習物を披く。今回は『檜垣』^{ひがき}その他の舞台が対象となった。

観世寿夫記念法政大学能楽賞を能楽研究家・羽田昶^{はたひさし}、喜多流シテ方・粟谷能夫^{あわやよしお}、催花賞を一色町能楽保存会が受賞した。羽田昶は1939年生れ、東京国立文化財研究所員、武蔵野大学教授、同大学能楽資料センター長等を歴任、現在、東京国立文化財研究所名誉研究員、武蔵野大学客員教授。共著に『能・狂言 能の作者と作品』(岩波書店)、『能楽大事典』(筑摩書房)等がある。粟谷能夫は1949年生れ、粟谷新太郎の長男、喜多実^{きただみ}に師事、粟谷能の会を主宰。『道成寺』『卒都婆小町』^{おぼすて}『鸚鵡小町』^{おうむ}『石橋』その他を披く。日本能楽会理事。

一色町能楽保存会は、三重県伊勢市一色町の能楽保存団体。伊勢猿楽の伝統を受けつぎ、一色神社の神事として奉納される一色能をはじめとする、演能活動を行っている。

春の叙勲に旭日双光章を金春流シテ方・本田光洋^{みつひろ}が受章。1942年

金剛龍謹 金剛能楽堂10周年記念公演『石橋』
写真提供:金剛永謹 撮影:山口宏子

大島政允 大島能舞台創建百周年記念能『木賊』
写真提供:池上嘉治

